

11月、中学3年生が親に連れられて来院。

半年前から腹痛・下痢が続いていて、過敏性腸症候群と診断されている。1ヶ月前からは胃もたれ・吐き気があり食べられず、頭痛も時々あると言う。学校は半年欠席している。そのため、公立高校には入れないと言っていた。勉強は嫌いではないようで、塾には行っている。漢方薬治療を受けているが、良くなる様子がなく、来院したようだ。お母さんも本人も様子が暗い。

診ると、胸から腹にかけて、邪気が広がって感じられる。胸も腹もスジ張っていて、押すと痛がる。特に胸下部は邪気が濃く溜まっていて(実)、一方、お腹には正常なエネルギーが少ない(虚)。背部はそれを反映して、胸下の背部がやや盛り上がった凝り(実)が強く、お腹の背部(腰)は板状に硬く張っていて(虚)、その範囲も広い。

かなり敏感な状態だと思われたので、鍼かざし(鍼を刺したり当てたりもしない)で治療することにした。案の定、鍼かざしでも本人はよく感じ、状態はよく変化した。腰には線香灸(線香をかざす)を施した。治療が終わると、吐き気や腹痛はなくなり、様子が明るくなった。それを見て、お母さんも涙で目を濡らしていた。

2日後、再診。前回治療当日は良い状態で、眠れるようになったが、翌日、再び腹痛・下痢、そして吐き気が出て来たと言う。ただ、本人もお母さんも明るくなった。

初診時のように広く全体的に邪気がある状態ではなく、胸から腹にかけて、中心部を含んで右側に縦に長い範囲で邪気を感じる。背面は逆に左側の凝りが強い。初診と同じく、鍼かざしで治療し、腰部には線香灸を施した。自宅でも千年灸をするよう灸点を腰に8ヶ所付けた。

漢方薬は以前、抑肝散、四逆散。その後、桂枝加芍薬湯、小建中湯。そして現在、半夏厚朴湯が

処方されている。効かない上に、飲むと食べられなくなると、本人は嫌っていた。小建中湯は悪くないと思ったが、効かなかったと言う。この薬方には膠飴という糯米から作った飴が入っているが、ツムラのエキス剤ではかなり少なく、そのために効かなかったのかもしれない。

師・横田観風はこう言っている。「小さい内は誰でも胸中を中心に胎毒を持っている。昔ならば胎毒は水疱瘡や麻疹など皮膚に出る病に罹り外に排出された。ところが最近では予防接種でそういう機会がなくなり、中に残ったままになる。カゼ等に罹った時にカゼの邪気が、胸に残った胎毒に入り暴れ出して喘息になったり皮膚病になる。そうならないで邪気がお腹に内攻した場合には下痢をして腸が傷んでしまうことがある。そして常時下痢をしやすい体質になってしまう。小建中湯証の体質となる。」

治療した当日・翌日は良いが、また悪くなる。お母さんの希望により、週2回の治療を3回にする。良い状態が多くなったが、悪い時には「精神科に連れて行け」とお母さんに言う。

次第に状態は変わってきた。刺鍼できるようになり、強い邪気は感じられなくなった。山城へ行ったり、ボーリングに行ったりするようになった。新年より学校に行けそうと言う。

年末年始になり、1週間程治療に来られず、状態はやや戻っていた。そして3学期始業式には登校できたが、腹痛・下痢があったと言う。そしてしばらく来なかったが、1ヶ月後、来院。私立高校への入学が決まっていた。以前より良いがまだ腹痛・下痢することがあるようである。

その後来院していないので、様子は分からないが、高校入学を機に気分も変わり、それが改善に寄与して、高校生活を全うできているのだと思う。(2018年6月芒種)